

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告

学校名【 横浜市立 大曽根小学校 】

1 実践テーマ	【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】
2 実施対象者	① 1～3年生 児童（391名）保護者（10名） ② 4～6年生 児童（366名） ③ 4～6年生 希望児童（86名）・保護者（12名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間 等）学年ごとに福祉体験 ※② 行事名（芸術鑑賞会）全盲のピアニスト梯剛之さんコンサート ③ その他（人権週間）ボッチャ体験、車いすバスケットボール体験 （2）地域における活動 ① イベント（英国パラ水泳選手と横浜市小学生との交流会）
4 目標 （ねらい）	障がいの有無にかかわらず、共に力を合わせて生活できる共生社会を実現するため、障がい者理解の学習・体験や障がい者との交流を通じ、多様性を理解し、心のバリアフリーを浸透させる。 ア）人権教育の推進 イ）体験を通じた障がい者理解の推進
5 取組内容	ア）人権教育の推進 ○福祉に関わる体験や取組を学年ごとに実施（継続実施） ・1年生 地域の高齢者とのふれあい（生活科「むかし遊び」） ・2年生 手話教室 ・3年生 盲導犬誘導体験 ・4年生 点字体験 ・5年生 助産師プログラム ・6年生 高齢者疑似体験、大曽根のまちのユニバーサルデザイン イ）体験を通じた障がい者理解の推進 ① ボッチャ体験 1～3年生児童保護者 ・上菅田特別支援学校の佐塚校長から、ボッチャ競技について教えていただいた。 ・事前に、全教職員が佐塚校長からボッチャについてお話を伺い、体験する研修の時間をもった。 ・1～3年生の児童がそれぞれ学年ごとに1授業時間ずつ、ボッチャについて話を伺い、全員が簡単なルールのゲームを体験した。 ② 車いすバスケットボール体験 4～6年生児童 ・横浜ウポールの協力により実現した。 事前打ち合わせの際には、教職員も競技用の車いすの試乗をさせていただいた。 ・当日は車いすバスケットボールの選手より説明を伺い、模範を見せていただいたのち、選手の皆さんとともに代表児童、教職員も参加しての模範試合を行った。



	③「英国パラ水泳チーム選手と横浜市の小学生との交流会」への参加 ・横浜国際プールで実施された「英国パラ水泳選手と横浜市小学生の交流会」において、4～6年生の参加希望児童がイギリスのパラリンピック水泳代表選手と交流する機会をもつことができた。  
6 主な成果	○主として、パラリンピックに対する知識が深まった ○実際に見て、聞いて、体験することを通して、子ども達の障がい者についての理解が広がり、意識の変化につながっている。子ども達の感想にもそのことは現れており、「知らなかったことを知ることができた」「それぞれの人ががんばっている姿に感銘を受けた」「自分にできることをしていきたい」等の言葉が多くみられた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○まず教職員が理解を深められるよう、当該学年に限ることなく事前の研修を設定した。 ○取り組んだことを共有することができるように、掲示物を工夫した。 ・掲示物を作成し、活動を共有していけるようにした。 ○保護者、地域の理解が深まるよう、学校便り、学校運営協議会、学校説明会等の場を活用し、周知に努めた。
8主な課題等	○カリキュラムの中での位置づけを、当初、学年ごとの判断にしたため、後日調整する必要が生じた。年間の中でどのように進めるかの調整が必要であると感じた。 ・人権週間の取組も含めて、特別活動、総合的な学習の時間等として、あらかじめ設定しておくようにする。
9来年度以降 の実施予定	○引き続き「インクルーシブな社会（共生社会）の構築」「多様性を尊重する態度の育成」をめざした具体的な取組を重ねることで、子ども達が、全ての人が認め合い共存できる社会の仕組みづくりの担い手として成長していくことができるようにしたい。 ○校内に取組についての情報が掲示できる場所をつくり、各学年や学級の取組を共有し、全体化するコーナーづくりを進める。